HASEKURA2.0@嵐山合宿2016

『**HASEKURA2.0**』は、東北をはじめとする日本の各地域と欧州の各地域のでおきた「ソーシャルイノベーション」を人を中心として繋げ、各地域から人と地域のサステナブルな未来を実現するビジネスモデル・経済モデルが育つことを目的とする、社会起業家や中小企業などのリーダー向けのビジネス交流・人材育成プロジェクトです。2013年の発足以来、主に東北を拠点に活躍する「工芸＆デザイン」「食育＆食文化」「レスポンシブル・ツーリズム」「スマートコミュニティ」の４つの分野のリーダー達とともに活動、「INTER LOCAL（地域間）の価値共有と創発」「伝統ベースのイノベーション」「持続可能な経済開発」を大切に考え、東北の地域間そして欧州との架け橋となってきました。

『HASEKURA2.0@嵐山合宿2016』は、これまでも大切にしてきた「INTER LOCAL（地域間）の価値共有と創発」の考えをさらに進め、東日本で活躍する実践者及び支援者や学識者と、西日本で活躍する実践者及び支援者や学識者たちが一堂に会して、ビジネスを起点とした地域社会変革のドライバーや阻害要因、未来のビジョンや今の現実について対話し、多様な視点から視野を広げ、視点を深める『HASEKURA2.0』はじめての試みとなります。最新の知識や課題意識が共有されるだけでなく、価値感や想いを共有する人たちの間で、さまざまなアイデアやつながりが生まれ、各自と各地の活動が加速する、列島横断型の実践コミュニティの形成を目的としています。

第１回目となるメンバーは、HASEKURA2.0発起人であるRenata Piazza、賛同者である友廣裕一（一般社団法人つむぎや）、同じく賛同者である桜井肖典（一般社団法人オープン・ガーデン）それぞれが、過去ご一緒して、理念や想いを共有してくれそうな方々にお声をかけさせていただいております。（招待者のみ15-25名程の合宿です）

＜日時＞

２０１６年３月６日１４時開始　３月７日１６時現地解散

＜場所＞

宇多野ユースホステル
〒616-8191　京都市右京区太秦中山町29
http://yh-kyoto.or.jp/utano/index.php

＜参加費＞

宿泊代、飲食代（朝、夕、昼、懇親会）：9000円
(招待者のみ)

＜スケジュール＞

◯3月6日（日）

14:00：　集合・開始
14:00-15:00：　チェックイン＆互いを知る
15:00-：　互いの事業を知る
（各自のビジョンと戦略を明確にし、ネクストステップへの事業課題を考える事業開発ワークを実施、共有）

18:00-19:30：　食事

19:30-21:00：　オープン・スペース・ダイアログ
（１時間・４箇所まで同時開催可能）
21:00-22:00：　オープン・スペース・ダイアログ
（１時間・４箇所まで同時開催可能）
22:00-：　自由時間

◯3月7日（月）

7:00-08:00：　朝食
8:00-08:30：　チェックイン
8:30-11:00：　それぞれの今後の戦略を考える
(仁和寺・龍安寺への相談したいパートナーとのペアウォーク、個人ワーク)
11:00-12:00：　オープン・スペース・ダイアログ
（１時間・４箇所まで同時開催可能）

12:00-13:30：　昼食（ひとつのおさら等京都の社会的企業からのケータリング）
13:30-14:30：　振返・チェックアウト
14:30-：　解散／希望者は京都市内スタディ・ツアー

17:00-：　JR京都駅

※オープン・スペース・ダイアログとは、各自が自分の話し合いたいテーマを発表し、各テーマの時間及び場所を決め、関心のあるテーマのもとに一同に集まり話し合う手法。

＜主な参加予定メンバー＞

◯Renata Piazza
NPO法人支倉プログラム代表理事。イタリア、シチリア島生まれ、ヴェネチア大学日本語学科卒業、早稲田大学政治経済学部客員研究員、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院

（SOAS）卒業。全日空、東京三菱銀行（ロンドン）を経て、スペイン外務省直轄外交機関カサアジア（Asia　House）に１０年間プロジェクト・コーディネーターとして勤務。以後日本ならびにアジア各国関連の講演会、展示会、セミナーなど経済・文化交流活動に従事。3.11以降、東北地方に何度も渡り長期間滞在し、強固なネットワークを築く。震災のあと東北に生み出したイノベーションを海外に紹介して、東北と欧州ビジネス交流を推進のため2013年「NPO法人支倉プログラム」を設立。

◯友廣 裕一

一般社団法人つむぎや　代表。08年早稲田大学卒業後「ムラアカリをゆく」と題して日本一周の旅に出る。全国70以上の農山漁村を訪ね、現地の仕事と暮らしに触れる。その後は東京都神津島の漁業後継者育成及び水産物直販に向けた仕組みづくり、地域の暮らしに触れるツアーや、生産者と消費者をつなぐ青空市などの企画を行う。3月17日から「つなプロ」エリアマネージャーとして宮城県入り、特別な支援が必要な方と専門家をつなぐ活動を行う。その後「トモノテ復興支援プロジェクト-」を仲間と立ち上げ、沿岸地域へのボランティアコーディネートを並行して行ったのち「一般社団法人つむぎや」を立ち上げ、手仕事を通した役割づくり・コミュニティ再生の事業を実施。

◯桜井 肖典

1977年生まれ、京都在住16年。メディアアートやファッションの領域からクリエイティブ・ディレクターへ転身。23歳で投資家から出資を受けデザイン・コンサルティング会社gift*Inc.を設立、スタートアップ企業や教育機関、地方自治体や非営利団体、神社仏閣など様々な地域や分野のブランド開発、デザインプロジェクトにおける企画と監修を重ねる。近年は21世紀型経営を探求し、ビジネスや地域をより創造的で持続可能なコミュニティとして解放するため、滋賀・京都・淡路・阿蘇・水俣などで経営支援やクリエイティブコンサルティングなど多様な立場から現場に参画。『Impact HUB Kyoto』の立上げに従事、RELEASE;ファウンダー／一般社団法人オープン・ガーデン代表理事／京都市ソーシャル・イノベーション研究所コミュニティ・オーガナイザー。

◯関 昌邦

森と湖のくに、会津のミッド城下町で、430年以上続く会津塗。その技術を用いた表彰記念品等を作るメーカー(株)関美工堂（1946年創業）の三代目。現在は、地域独自の技術を活かしたハンドメイドクラフト製品を、今のライフタイルに寄り添える道具としてリデザイン、再生する製品開発に取り組んでいる。製造業の傍ら、国内外のデザイン製品を集めたライフスタイルショップ b Preseを運営し、独自視点・感性で、双方向に情報を発信中。

◯長谷川 純一

1970福島県会津若松市生まれ (43歳)、福島　県立会津工業高校、機械科卒(バドミントン部所属) 父の他界に伴い福島県農業短期大学卒。就農。会津 農書を語り継ぐ会会長。400年程続く会津伝統野菜 を栽培しながら、学校給食を通じて子供たちに食育 についての授業などにも取り組む。

◯鈴木美佐子
工房おりをり主宰。福島県内の専門学校で和裁・洋裁を専攻、卒業後21歳より山形県米沢市の新田かつ氏に織物を学ぶ。その後、独自に草木染めと織物作品の制作を開始。京都川島テキスタイルスクールに通いながら、講師としての活動を始める。2001年より福島市にて工房おりをりを開設し、織物・紡ぎ・草木染め・羊毛クラフトなどの講習や作品販売を行う。2007年には市内に羊毛フェルトの材料販売・作品専門店「町工房おりをり」をオープン。2010年、古民家を改修した染織工房おりをりを開き、職人育成・技術継承などに幅広く取り組んでいる。「寺子屋おりをり」では、子ども達へ"本物"を通して「ものづくり」を楽しめるようなプログラムを提供。

◯風間 美穂
プロデューサー／クリエイティブ・カタリスト。新潟県生まれ。「サスティナブルな社会/世界を引き寄せたい」と奮闘する方々のサポートをするため、多様な人々の間でクリエイティブやコミュニケーションの橋渡しをするカタリスト。これまでに一般社団法人Think the Earthや「RELEASE; KYOTO」などで複数の企業やプロジェクトに関わる。企業や政府、地方自治体、NPO/NGOやクリエイターなどの間を結びながら、“エコロジーとエコノミーの共存”を目指し、想いのある人を応援するのが生業。

◯桑原憂貴
株式会社 紬 代表。東日本大震災以降、岩手県陸前高田市において、地域材を活かしたものづくり「KUMIKIプロジェクト」をスタート。活動当初は、地元住民とともに杉間伐材ブロックを用いた集会所づくりに挑戦する。活動を通じて森林資源の豊富な中山間地域における小規模製材所の重要性を感じたことから、東北をはじめ、全国の製材所と連携した「暮らしを手づくりする人の国産DIYブランドづくり」に取り組む。現在は、暮らしを手でつくる人を増やし、日本の森をつなげることを目指す。

◯Christian Dimmer
ドイツ、カイザースラウテルン工科大学の学際的な空間・環境計画課程を卒業し、東京大学で博士号を取得。都市設計コンサルタントとして、磯崎新アトリエなどの建築事務所や三菱地所などの不動産デベロッパーに協力している。2006年に設計事務所「フロントオフィス東京」を共同設立した。現在、早稲田大学国際教養学部で持続可能な都市化と都市計画の理論を教えているほか、東京大学の特認研究員でもある。

◯前田 展広
京都市ソーシャルイノベーション研究所コーディネイター。1977年京都市生まれ。京都産業大学卒業後、デザインスクール　にて運営マネジメント、産学協同案件をプロデュースし、各種ク リエイティブ産業のための人材育成、デザインの振興に取り組む。 2011年より(株)シーズクリエイト(本社八尾)入社。これか　らの社会に必要な「仕組み」と「居場所」を作る協業型プロジェ　クトを推進。奈良県では、奈良ならではの「感動」を伝えるバイ　リンガルフリーペーパー“naranara”の編集長、2012年奈良・町　家の芸術祭HANARART実行委員を務めるほか、空き町家の利活　用を推進する”大和・町家サブリースPROJECT”等を展開。現在はフリーランスのプロジェクト・　マネージャーとして様々な事業開発に関わる。

◯牛飼 勇太
一般社団法人Vコミュニティ代表理事。「小さなコミュニティから地域をゲンキに」をコンセプトに山や田舎で農業とコミュニティ・デザインを手がける。六甲山の森の中にある元学校施設をリノベーションしたシェアハウス『Viaggio』、芦屋市山手町に野菜付きのシェアハウス『ヤマテハウス』、「わが子に食べさせたいものを畑から」をコンセプトとした有機野菜と自然食品のお店『Farm to Child』、特産物のある地域の収穫期に起こる人手不足を解消するために、　現地の空家を期間限定のシェアハウスにして若者達が滞在し、農作業をアルバイト的にお手伝いするプロジェクト『援農キャラバン』など。

◯松山 幸子
monomo代表。プロデューサー／キュレーター。伝統工芸品を始めとする手しごとの裏側のストーリーを世界に発信し、愛着をもって使っていただくことをミッションとし、通販事業やイベントにて海外の方と伝統工芸品との接点を作る一方で、海外のクリエイターとのコラボレーションもサポート。

◯松浦 真
1981年生まれ。大阪市立大学卒業。大学在学中より大学生の就職活動支援に関わり、より若い時期から、多様な生き方に触れる機会が必要と考えて、社会人3年目に起業。従来型の今ある仕事（今ある価値観）を子どもたちが体験する仕事体験プログラムとは異なり、「今ない仕事、今ない価値観を、テクノロジーを手段として、子どもたちが発見し、創りだすプログラム」を展開。これまで8年間で15000名、150を超える小学校で仕事共創プログラムを実施。キッズデザイン賞などを受賞。3歳と6歳の父。

◯長谷川 順一
岩手県陸前高田市生まれ。箱根山テラス代表取締役用務員・株式会社長谷川建設４代目代表取締役をつとめる。東日本大震災以降「熱エネルギー自立」をテーマに木質バイオマス普及に奔走する。長谷川建設代表就任時から「つくる・まわす・つなぐ」をテーマに活動。２０１４年にオープンした箱根山テラス代表に就任し新しいテーマに「いのち」が加わる。そして２０１５年１１月からGoogleイノベーション東北と共同で新しい試み「WoodLuck～木質バイオマスとおいしい食事」という、いかにも変態な企画を主催する。

◯及川 武宏
1979年4月27日生まれ、岩手県大船渡市出身。高校卒業まで大船渡で育ち、その後、東京、北海道、海外などを転々としたあと、都内の監査法人系コンサルティング会社で内部統制や業務改善を行う。起業を考えていた矢先の2011年3月に東日本大震災が発生。8月から公益財団法人東日本大震災復興支援財団で被災した東北の子どもたちの支援に携わる。奨学金事業、宮城県のジュニアアスリート育成事業などを立ち上げる。2013年5月、大船渡にThree Peaks Wineryを立ち上げ財団業務と兼務しながらぶどう栽培、りんご園の運営を始める。その年の9月に財団を退職。2014年1月から家族とともに大船渡市に移住。財団の業務を継続しながらワイナリー設立に向けて本格的に事業を開始。2015年、Three Peaks Winery初のワインを発売。

◯石川 りさ
学生時代にNYCを拠点とするNPO Green Map Systemにて地図のアイコンデザインを担当。そこからデザイン系、ソーシャル系の会社を転々とし、現在は神戸・元町　株式会社リサブレアにて、生地を中心としたインテリアのデザインを行う。グリーンマップシステムのグローバルなネットワークを通じ、最近では、2015年の別府在住竹職人とインドネシアの村民との1年間に渡るモノづくりプロジェクトの企画に携わる。

◯山崎 まさお
http://woods-kids.jp
http://www.share-woods.jp

◯池田 伸之
一般社団法人日本旅行業協会本部事務局／ツーリズムEXPOジャパン
https://www.jata-net.or.jp

◯ 飯田　麻衣
1991年大阪生まれ。国際基督教大学（ICU）および東京大学公共政策大学院卒。幼少時代をアメリカで過ごした経験から世界と日本の関わりに興味を抱く。東日本大震災後、東北地方での活動家との出会いから刺激を受け、伝統工芸などの地方の価値に魅了されて以来、日本のローカルからグローバルへ発信する「地方からの外交」をライフワークとする。TEDxTohoku　翻訳通訳チーム創設、G8（現G7）首脳会合のユース版　Y8　Summitの日本代表、IMF世銀総会リエゾン等、日本と世界を舞台として活動を広げる。学術面では、学部時代にロンドン大学LSEに留学し、日本の外交政策を中心とした国際関係学を学ぶ。その後、大学院では地方への移住政策について研究し、自身も東京からのIターンを決意。現在は福岡に移住し、バイリンガル教育者、フリーランス翻訳通訳者、そして気まぐれブロガーとして、多方面に活動中。

◯坂本 典子
スウェーデン・ルンド大学国際環境学修士号取得後、2006年より、環境NGO ジャパン・フォー・サステナビリティ事務局のスタッフとして、日本における持続可能な社会づくりに向けての政府・自治体・大学/研究機関・企業・NGOなどの動きを世界に発信する事業に携わる。2011年より、幸せ経済社会研究所の海外窓口・リサーチャーを兼務。2015年８月より、サステナビリティを題材とする国際的かつ気軽なディスカッションの場として、Tokyo Sustainability Meetup を主宰している。

◯ Daniel Kremers
ダニエル・クレマーズ氏はドイツ日本研究所の上席フェローです。主たる関心は、日本の地域コミュニティと市民社会における政治的役割についてです。現在は、多様性、平等性、社会保障の観点からみた日本の再生可能エネルギー、気候変動防止、外国人労働者問題の研究にも携っています。
ライプツィヒ大学(ドイツ)、早稲田大学（日本）で学び、マルティン・ルター大学ヴィッテンベルク(ドイツ)では博士号を取得しています。ティルマン・ケーニヒ氏と共にドキュ

メンタリー映画「サワー・ストロベリーズ　知られざる日本の外国人労働者」の監督を務めました。

○ 三好 隆之（みよしたかゆき）
建築家。日本工営株式会社コンサルタント海外事業本部開発計画部（2011-）。東京大学大学院修了後、文化庁派遣芸術家在外研修員（1999-2000）としてスペインの建築設計事務所にて研修。その後、伊東豊雄建築設計事務所（2001-2008）にて主に欧州案件を担当し、バルセロナのほか、ロンドン、ロッテルダムのプロジェクトを手掛ける。現在、開発系コンサルタント会社にてＯＤＡ（政府開発援助）に従事し、ASEAN地域を中心に活動中。現在はミャンマーのバガン観光開発を担当し、世界遺産登録に向けての後方支援を行っている。

○岩崎 雅美
コミュニティ・デザイナー／TURNS地域コーディネーター
1980年埼玉生まれ。東海大学教養学部芸術学科デザイン学課程卒。CSRコンサル・レポート制作会社にて、企画制作ディレクションを担当。CSR分野におけるサステナビリティやソーシャルを探求した後、2012年よりumariへ参画、「いいね！JAPANソーシャルアワード」、「JLIC(Japan Local Innovators Committee)」ほか、地域コーディネート、伝統工芸ブランド開発等を担当。現在雑誌TURNS地域コーディネーター。主に、地域、ソーシャル、ものづくり、アウトドアデザイン系の分野に携わっている。そのほか、ライフワークとして、都会の暮らしの中で、自然と過ごすライフスタイルを提案する　「東京キャンプ」　代表。ピクニックプランナー。　アーバンピクニックやキャンプの場作りや楽しみ方の情報発信を行う。

○西村 和代
カラーズジャパン株式会社 代表取締役／一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパン共同代表／ひとつのおさら 主宰

○ 東 良太
株式会社フェリシモ

○ Feilang Tseng
株式会社オムロン　デザイナー

○松山 圭介
水俣市役所　経済振興局

○タナカ ユウヤ
京都移住計画
http://kyoto-iju.com/

◯小田展正
地域観光コ・クリエーター／高知県地域観光プロデューサー／じゃらんリサーチセンターアソシエイトスタッフ
1971年広島県生まれ。（株）リクルートにて、じゃらん関西版や東海版の編集長、関西・東海・九州版の統括マネージャーなどを歴任。その後、高知県観光コンベンション協会のプロデューサーとして組織開発、旅行商品企画提案、観光キャンペーンのプロデュースを行う。2015年に独立後、地域観光コ・クリエーターとして産学官民連携プロジェクトのコーディネート、ワークショップデザイン、組織づくり・旅行商品化・情報発信に関するアドバイスなどを行っている。

◯ 山本タケシ　（盛岡大）

◯　小林篤史（会津農林の生徒会長）